

件名	令和6年度 福井市障がい者自立支援協議会 第3回 居宅生活支援部会 議事録		
日時	令和6年11月14日（木）10:00～11:00	会場	福井市役所 本館6階6会議室
欠席者	石森氏（くまっこクラブ）		
会議次第	1. 報告及び協議内容 （1）各WGの進捗報告等について ・地域理解促進 資料1 ・課題抽出 資料2～2-4		
報告	【部会長】 ・地域理解促進と、課題を抽出しようということでアンケートを実施した。その結果が出たのでアンケートを基に皆さんと共に話し合っていきたい。 （1）各WGの進捗報告等について 地域理解促進 資料1 【黒田氏】 ・地区の民児協に依頼をしているが、今年度の後半または次年度以降のところに盛り込むということでご検討している。 【大角氏】 ・個人的に頑張るのではなく、相談員に周知をしたらいかかがか。 【黒田氏】 ・相談員に呼びかけとご協力をお願いできるんじゃないかっていうか…。 【城戸氏】 ・連絡会の担当と確認して、正式なルートで周知できればと思う。 【北川氏】 ・民児協対象にチラシは配ったのか、地域理解促進として他にはどうなのか？ 【長谷川氏】 ・地区社協に声かけをしている。また福祉委員の研修にも声をかけている。できることから一地区でもと考えている。 【丸山氏】 ・昨年、吉村会長に民児協の会長会に来てもらい話をしてもらったが、これから民児協の計画を立てている時期なので再度来てもらってはどうかと思った。 【会長】 ・会長会、社協との協力の意見も出た。相談員の方もお願いするという形で進めていきたい。		
報告	（1）各WGの進捗報告等について 課題抽出 資料2～2-4 【黒田氏】 ・アンケートの結果を取りまとめて、その中から課題をピックアップするという作業を行った。		

- ・利用者と接する中で、利用者がどんな困り感を有しているか、または不安を感じていると感じるかという項目では、健康面、移動、家族、余暇等々、10項目の中で、それぞれの課題と思われる部分をワーキンググループで取りまとめた。箇条書きの部分だが、膨大な量があったので、具体的な内容については似たような内容だったり、同じような課題について、ピックアップした。設問の8の具体的な部分をより取りまとめたものが資料の2の3になる。

インフォーマル・フォーマルな社会資源なども、かなり課題や項目の方で被る部分があったのでワーキンググループの方で取りまとめた。

フォーマル・インフォーマルの左側の番号は例えば、40と55については金銭について、金銭感覚など学ぶ機会があるといいという項目で取りまとめた。

- ・今回の部会の中でお願いしたいのは、アンケートの結果を基に振り分けたこの課題について今できること、そして次年度以降にできること、これを整理して優先度のある程度つけていきたい。皆さんからご意見をいただきたい。

【会長】

- ・サービス管理責任者とか管理者が書いたので、中には支援者側からの思いも入ってる部分はあるが、地域で暮らしてる方がこれに困っているという声は結構拾えたと思う。

【竹澤氏】

- ・簡単にもう少し説明をして欲しい。

【会長】

- ・課題のその抽出、資料2の3を中心にピックアップしていく。今すぐ居宅部会としてできることは、現在研修の方でやっているところ。項目の中で多いのが、『サービス利用』『移動』あとは仕事とか余暇活動についての項目が非常に多いという印象。ある程度優先度をつけ、居宅生活支援部会としてできることとしたい。しかし、番号が多いのでピックアップするのが望ましいのか、それとも優先度を他の視点でつけていく方がいいのか。アンケート結果が少ないからといって、優先ではないとは判断が難しいので、部会員の皆さんから意見いただきたい。

アンケートを取るときに相談以外のサービス事業所だったが相談も含めたので、違う結果等も出たため、内訳で相談と相談以外を表記した。健康面だと医療との連携とか、病院に行けない等がある。生活に金銭的な余裕がないとか、金銭管理を学ぶ機会がない、将来的な不安というところがある。その具体的な例は資料2—3でまとめてある。仕事については一般就労に繋がらないとか、家族と意見の齟齬がある。家族関係がうまくいっていない、親が高齢になったので将来が不安である、頼れる身内がいらない等がある。移動については最近バスの本数が減っている所以移動ができないとか、サービス事業所に来れない、交通機関に乗りたいが、場所によってサポートが異なること、タクシーチケットに限りがある等。 サービス利用についても、家族の高齢化に伴い、本人の継続的な支援が困難になっている。強度行動障がいの方を受け入れるところが不足しており、休日にも利用できるサービスが不足している。住まいについては、身体障がいの方の賃貸物件はほとんどない。余暇支援もコロナ禍で活動がなくなっている。防災に関しては、不安がある。避難所に医療系が不足するのではないか、災害が起きた時どうしていいかわからない、近所付き合いや交流が難しい、近隣住民から監視されてるような気がする等。

- ・サービスは増えてはいるが、たらい回しになってしまう等は『その他』でまとめた。

【黒田氏】

- ・取りまとめて今すぐにできることが、地域の理解促進・周知は今年度も取り組んでるところ。

それに加えて、余暇活動については、次年度以降に余暇支援冊子の作成周知を予定している。移動については後で協議のところ掘り下げがある。この3つは盛り込んでやっていこうと叩き台として挙げたが、これ以外の項目についても課題が上がっているので、意見をいただきたい。

【北山氏】

- ・アンケートに答える時に、少しだけ意識したのは誰の声か。アンケートの中に主語がわからないようなものもあった。設問8の1番「生活介護を利用はしたいが、自分の体調が優れず送り出しがしんどく利用できない」は誰が？お母さんなのか。家族の体調が悪くて行かせてやりたけれど行かせられないみたいなところ。主語がどこなのか、支援員が想像でこういうことに困っているだろうみたい。当の本人は別にそれよりもこっちの方が困っているというようなこともあるのでは。抽出するとき意識しないといけないと思った。
- ・前回の会議でも言及した通り、居宅部会で課題を出すだけではなく、市の福祉計画があるのでそことリンクしていないと。違うものをやるよりは、福井市の福祉計画の中に盛り込まれているものに向けてリンクしているものを選んだ方がいいのでは。

【会長】

- ・障がい者ご本人の思いなのかは計り知れない。一応事務局でピックアップした原本を出すわけにはいかなく、どこの誰々が言っているというところまでは出せない。実は事務局も計り知れない。そして福井市の障がい福祉計画に沿ってという意見があった。他に意見はないか。

【橋本氏】

- ・ワーキンググループは2回行われた。1回ではまとめきれないような膨大な内容をいくつかにまとめた。まずそういう制度が今ない状態で、こういうのがあったらいいなというアンケートの答えもあった。本当に今からでもすぐに取り組めるようなこともあった。
新しく制度を作るとか、独自のものをやるのは大変だとは思いますが、その中でも何から変えれそうかを考えていくのがいいのかと思った。居宅部会だけで考えても出ない答えを、例えばどこと絡むと少しいいアイデアが出てくるのでは。移動のことにしてもバス会社、タクシー会社と絡む方が必要かと思う。どこの団体やどこのサービスと絡んでいくと、少し前に進めるアイデアが出るのかなと、まとめながら思っていた。

【北川氏】

- ・健康面、病院との連携が1番数として多いという結果にはなっていたかと思うが、そこも内容を精査すると、それこそ主語が誰かというところにはなるが、体調面の心配っていうコメントが多くて、これが居宅部会で取り上げられるかということ、個人個人の健康面っていうところの不安については、居宅部会で取り上げられるテーマではないだろうというところは、ワーキンググループの中でも話し合われた。ただ、連携という部分は、私が所属するその医療、ワーカー協会の立場として言うと、ある程度の規模の病院には医療ソーシャルワーカーが配属されているので、誰と連携したらいいのか、誰に相談したらいいのかの窓口としては、病院の地域連携室を窓口にしてもらう。その体制自体を地域の相談員の方がどこまで認知してもらっているのかを、この結果を見て感じた。病院のソーシャルワーカーは、どちらかというと高齢者分野との連携がまだまだ多い。障がいの分野との連携が協会から見ても、繋がりが弱いからこそ、この結果になっている可能性も考えられるのかなとは感じているので、次回医療ソーシャルワーカー協会の理事会などで報告する。そして、何か取り組めることはないかと確認はしていきたい。

【稲木氏】

- ・2回とも不参加だった。何ができるのかに焦点を当てないと。傍聴に議会の方もいる。議会とかでやらないといけない部分もあると思う。年に数回しか集まる機会がない中で、どこまでのことができるのかはわからないが、1つに絞って、その1つだけは、やりきるという感じがいいと思う。

【大角氏】

- ・障がいがあるからではなくて、漠然としたこの世の中に対する不安（生活費とか）、障害があるから不安を余計に感じる、強く感じるという面はあると思う。世の中全体で感じている不安というのと、その辺の整理も必要かと思う。誰の目線でこの発言が出てるのかということも整理の方向にポイントとしてあるかと思った。

【宮永氏】

- ・ワーキングの方に出てなくて申し訳ないが、資料2—3に挙げられてることは、今までいろんな障がいの方（私は知的障がいの方だが）から聞くのとほぼ同じようなことがずっと羅列されている。これをこの部会でどれかに絞ってやろうと言っても、それぞれの立場によっても違うし、ここに問題提起されたのなら、自分達のところでできることを率先してやるという方法かと。例えば、ワクチンの接種は65歳以上は優遇されている。インフルエンザにしても安い。高齢のご夫婦と障がいのある子どもの家族から問い合わせがあって、コロナワクチンは、65歳以上は3000円だが、子供は一般で受けると1万3000円かかる。親はコロナ予防注射に行けるけど、子供の分1万3000円で払えないよと。重度障がいの補助ができないか聞いてと依頼されて障がい福祉課に電話したが、助成制度はありませんと言われた。これからコロナがもし増えるのならば、せめて重度障がいの手帳を持ってる人を対象にできないか。すごく予算がかかるけども、そういうのはここで話すよりも、障がい福祉課での判断かと。
- ・県の方にも陳情したが、A型事業所がなくなってきて、一般会社に「障がい者の雇用をあげなさい」である。実際、私の会社でも知的障がいの子が来ているが、本当は身障の方を入れたい。知的障害の方は非常に難しいし、フォローができない。職安の方に聞いたが、知的障がいの方の離職率も高い。どうしようもないで済ませて、A型事業所はどんどん縮小して、一般企業に行きなさいで、一般企業もどうしようもない。結局、就職しても、その周りの人が面倒見なければ一と立ってるだけで、それでなんか失敗すると怒られる。ここで話したって無理だと思う。つい最近で言えば、災害時の避難支援計画、これは前から言っていたことだが、危機管理室が公民館の方で作りましょうってことでやってるだけ。障がい者の人に対してどういう風な訓練をするかということも何も決まってない。
課題をどれかに絞るのは本当に難しいんじゃないか。まずはこうやって問題抽出ができたならば、できることをやっていくしかないかと思っている。

【会長】

- ・それぞれのところがやっても、なかなか進んでいけないので、居宅支援部会で声を上げる必要があるのではないかと考えている。
コムサポート・プロジェクトから移動についての意見があり、今日は生の声を聞いていただきたい。

【斉藤氏】

- ・資料にも書いてあるように、うちの団体の利用者の方は、車椅子賃貸の方がほとんどだが、バスが、平成、令和6年の6月から、廃線だとか減便だとかということで、路線が非常に利用し

づらくなっているという声があり、特に最近ちょっと大きくなってきているかなという声を聞いている。

住まいのある地域から福井駅までは、基本的にバスを利用して、事務所のある「アオッサ」のところまで来ているが、路線の減便により、乗客の方が集中し乗れない日があるということが多々あるようになってきた。以前はそこまではなかったけれども、そういった時の運転手の対応もちょっと悪くなってきている。昔はバス会社と合同研修ができていたのだが、コロナで接触がなかなかできないうところから、数年間、今もできてない状態だが、運転手さんもクレームは会社に言ってくれとか、「乗れないですよ」というのは普通に言ってくるような、乗車拒否に近いような状態のことをされてしまっているという現状もある。

- ・ここ最近、実際にあったのが、コムサポに行くのにバス乗ろうと思ったら、もうすでに車椅子の方が1人。これはスマイルバスだったが、次の便が来るまでにまだ約1時間あり、じゃあ普通の路線の方に乗ろうかなと時刻表を見たら、次来るバスがノンステップバスになっていないってということで、1時間半近く後のバスじゃないともうノンステップバスが来ないということで、困ったということも言っていた。
- ・ニュースで、地域によって乗り合いバス（コミュニティバス）というのが増えて出てきても、車椅子で乗り込めることができるのかできないのかで、利用ができる・できないというのが不透明であって、使えたいけど使えないってということも言っていた。
- ・京福バスに1台だけあったリフト付きのバスがなくなったということを聞いているという利用者の方は、実際使っていたリフトバスが今故障中で、それがなくなったと運転手に言われたらしいが、今日確認したところ、一応、代替のノンステップバスに順次切り替えはしていっているという回答で、代替案は検討して貰っているようだ。
- ・減便に伴って、ちょうどいい時間帯のバスがなくなってきたので、タクシーを利用するが例年、雪だとか猛暑の時期にタクシーをなるべく使いたい、バスの待ち時間を減らしたいから使いたいということだが、あとのためにタクシーチケットを残しておかなくちゃいけないので、タクシーを使っても、自己負担額等、経済的負担が大きくなって外出を控えてしまうというところがある。
- ・そのタクシーチケットについてだが、福井市議会の中でも減便による不具合については答質問がなされていて、タクシーチケットの枚数の増加の要望もして貰っているが、タクシーチケットの利用実績が低いので枚数が増やせないという答弁を得たという。このアンケートの取り方が、配った枚数に対して使われた枚数という中で判断の仕方になってたもの。現状、福井市では、タクシーチケットが1回につき1枚しか利用ができなくて、それを36枚配布いうところなんだが、大体、タクシーを1回使うと、いくらぐらいタクシーチケット以外に払っているかということ、追加で2~3000円払ってるということだった。そうなってくると、タクシーチケット1枚もらっていたとしても、経済的な負担が結構大きいということで、タクシーチケットを1回に複数枚使えないかということは今陳情させていただきたいなという声を挙げさせてもらっている。
- ・他の市町を見ると、枚数制限なしで出せる市だったり、1回に提出できるのは6枚けれども、配布枚数が4、5枚ある鯖江市だったり、500円券と100円券があって、極力使い切れるような形で複数枚使ってもいいですよ、という配布の仕方をしてる（坂井市）中で、福井市においてだけ、1回につき1枚しか使えないということで、使いきれずに終わってるとか、そもそも高いから使わないということで使わずに終わってしまっている人がいる中で、利用実績

枚数が少ないという答えになってるので、ちょっと見直していただきたいなっていうところ。チケットが使いやすい・利用しやすい公共交通利用にしていいただけると助かるなという声を聴いている。

【会長】

- ・このように、市役所で高田議員さんなども 答弁をされているが、身体障がい者の方の移動の課題については、なかなか進んでいかない現状があるという、そしてとても大変困っている。宮永さんの方も大変 そういう知的障がい者の方の就労に関して困っているというような、それぞれの団体では頑張っておられる状況はあっても、地域で暮らす中で居宅支援部会があって、皆さん、このアンケートから、何か自分たちの部会で アンケートを基に、そこから身体障がい者の方に聞いていくであるとか、 知的障がい者の方に聞いていくであるとか、そういうようなものやっていて、今すぐできること、来年頑張っちゃってやっていくことを考えていきたいなと思う。では、 竹澤さん、以上の話を聞いて、いかがか。

【竹澤氏】

- ・今日の議論を全体的に考えると、コムサポの斎藤氏の話とかを聞きながら、アンケート結果を項目による課題抽出というより横断的に見てみると、健康面でも、障害を理由に受診を断られるとか、体調不良でも、急な受診ができないとか、福祉サービスについても、医ケアであることでサービス利用が困難だとか、住まいに関しても、車椅子だと賃貸物件がほとんどないというようなことがあって、これを、今、一方で地域理解促進・障害者の理解を進めるために民児協を相手に進め、このアンケートで出てきている課題と斎藤さんの声で、どれだけ解決できるのかという疑問が非常に浮かんでいる。居宅生活部会で、当然できること、できることは限られてるけれども、これを自立支援協議会の方に挙げて、自立支援協議会全体でこの医療機関とか福祉事業所であるとか不動産関係のところに、それぞれの理解を進めていくために具体的に声を上げ発信していくというこが喫緊の課題じゃないかなと思う。

【会長】

- ・本当に、地域住民に理解をしてもらって、住みやすくしようという地域理解促進なんだが、実際、生活していくのにこんな課題があるといったことを、自立支援協議会にしっかりとどのようにアンケート結果を報告していくのか。そして、住んでいるところを良くしていくために居宅支援部会があって、その中で この課題について自立支援協議会に部会としてどのように声を上げていくべきだとか、を取りまとめないといけないのかなと思っている。今できることは、竹澤さんからは、声を上げていくことなんだということだったが、 出店さんも、部会の皆さんに対しちょっとしっかりこういうところをあげてほしいっていうのがあればどうぞ。

【出店氏】

- ・本人の話を聞いていると、一般就労についても、なかなか職場の周りの方も、どう対応しているかということに、困っているのかもしれない。うちの場合などは、10 数年、一般就労しているが、近年、だんだん仕事の量が減ってきたらしい。で、空き時間がいっぱいあって、それはどうも普通のようなんだが、特に精神障がい、発達障がいの人にどういう風に対応していったら良いのかということ。困った言動が見られた場合に、どう言葉をかけてったらいいかとか。率直に、「それはダメだよ」とかでいいものなのかどうかって、それさえも迷うことがある。だから、どう対応するといいいのかといったことが学べたらいいなと思う。

【中村氏】

- ・アンケートの結果で、やはり、この居宅生活支援部会だけではなくて、仕事のこととか、色々

な部会と情報共有しながら、こういう結果が出たので、どんなことができるかを相談しながら、部会の中で注力したいことが見つかるといいなと思った。この交通関係のことは、相談事が地域活動支援センターでも結構ある。あと、家族関係について、もともとうまくいってないとか、色々な話がある。部会ならではのことに取り組めるといいなと思う。このアンケートも、やってよかったという意見があったので、この結果を発信し、こういう結果が出ましたっていうことを伝え、またこれを元に色々な方とお話をしていくとすごくいいのではないかなと思った。

【会長】

- ・声を上げていく、という皆さんの声があったと思うので、いろんな部会に対して伝えることはできるのかなとは思っている。山越氏、いかがか。

【山越氏】

- ・今感心してるのは、素晴らしい言葉が随分出ていること、こういうアンケートの中にも。これを一度にすることは難しいと思うので、絞る必要があるのかなということは私も賛成したい。いくらみんなが知恵を出しても、絞っていかないとまとまりにくいんじゃないかなと思うし、まして、市の障がい福祉課とも社協とも協議しながら進めた方がいいのかなと感じる。

先だって、身日連の中部ブロックの研修会があった時に、厚生（労働）省の担当者が来たが、医療関係の話を聞いていると、どうも障害の重い人の方はあんまり重視しておらず、要するに医療費の対価効果を見るとよいと言っていた。皆さんもそういうことを頭にちょっと入れながらになるのかなと思っている。

【橋本氏】

- ・精神障がいを持つ方にも移動がとても課題になる方が多くて…。精神疾患を持たれてる方には定期的な通院をしてほしいんだけど、やはり移動手段とか金銭的な負担で通院が途絶えてしまったりする方も多かったり、あとは、その特性上、バスや電車といった公共の機関が使えない方もいて、タクシーが使いやすくなるといいなという風に思っている。タクシーチケット配布が、市によって色々違いがあって、なんか便利な使い方ができる場所もあるんだと、今教えられ、そういう意味でもこういう協議の場があってよかったなと思うし、精神の方にとっても、移動に関して、いい方に変えて貰えるといいということを付け加える。

【会長】

- ・各部署で頑張っているけどやっぱりできないといったところがあって、壁があるという感じだとしたら、このアンケート結果はちゃんと自立支援協議会に出した方がいいんじゃないかという思いはわかった。移動・タクシーのことについては斎藤さんや皆さんからの意見もあった。黒田氏からの説明もあったが、今すぐできることとしては、やっぱり声を上げる、このアンケート結果をちゃんと伝えるということは1つの大きな「今！」なのかと思う。居宅生活支援部会でこういうアンケートを打ったらこういうことが出たと、そして、こういう意見も、当事者の方からあったということは、しっかりと伝えるべきことなのかなと思っている。

【竹澤氏】

- ・しっかりと自立支援協議会全体の方に挙げていただいてですね、声を上げていくっていうような具体的なメッセージをぜひ発信していただきたいなという風に思う。医療機関であるとか、福祉事業所であるとか、不動産関係とか、様々なところで、障害者差別があるということだと思うので、そこはぜひ解消していくようにということで、自立支援協議会として具体的な

メッセージを発信する必要があるのかなという風に思う。

【会長】

- ・今の話だと、障がい者差別があるんじゃないかというところにポイントを持っていくべきなんじゃないかっていうようなご意見。

【北山氏】

- ・後半は、移動のことについて話し合われていた中では、違うまたベクトルから見ると、うちの事業所が関係することではあることだが、移動支援を提供する事業所自体が少ないというところ。で、これは実際どういうニーズがあって、どれぐらいの提供事業所があって、というのをちょっとリサーチして貰えたら。福井市の方にまとめを依頼したいところではある。移動支援1つにしても、発達、知的、精神の方に関しては、やっぱり1人で外出することができないからついてきてほしいとか、公共交通を自分で1人で乗れるようになるために、最初、移動支援を使いたいとか、いろんな声がある。身体の方に関しては、外出には必須と思うが、そういう移動支援1つとっても、理由が様々あるというところにおいて、障がい種別問わずというのは今言われているが、種別問わずとはいえ、種別によって課題感は全然違うものなので、ここで議論するのは確かには大変だなとは常日頃思っている。

最後、スケジュール的なところでなんですけれども、もう部会が年明け1回しかないという中で、どういう風に流れていくのかなっていうのをちょっと確認をすると、課題抽出できただけでも、これだけのものがまず出てきたというのはいい成果として、これを他の部会員なり自立支援協議会の上の方にあげていくことが終結で、とりあえずで、今回は次年度に向けた課題を考えるってところでよいか。

【会長】

- ・本当は、今やるべきこととか、それから来年度に向けてやるべきことというのを、とりあえず課題を抽出する1つのやり方として、このアンケートがあったので、実際これを今皆さんの思いとして、自立支援協議会全体会とかで伝えるということだが、しかし、これは我々居宅生活支援部会がこれから何をやっていくかということを考える1つの手掛かりとするためにやったことなので、居宅生活支援部会として、我々ができることを考えていかなければいけない機会ということなので、もう一度、各会員持って帰り、考えてほしい。次の時にはしっかりと、次年度以降できることをしっかりと皆さんで話をし、部会として何か行動できることというのを考えていきたいとは思っている。

【黒田氏】

- ・聞いていてポイントになりそうだなっていうところと、次年度に向けてやっていった方がいいんじゃないかと思われることについて、ちょっと定義させてもらえればと思う。

具体的にちゃんと声を上げていって、自立支援協議会の方に整理した上で提起する必要があるのではないかということが1つ。ただ、その提起する内容とか具体的な項目が何なのかについては、ちゃんと障がい福祉計画の方とリンクしていく必要があるので、ちゃんとそれを照らし合わせて精査する必要があるんじゃないかという項目が1つ。

そして、その上がってきた項目が、漠然とした不安とか、あと、実際に支援者または当事者の方の不安や、こういう風にやってほしいという要望なのか、誰からの要望として捉えるのかというところを整理した方がいいんじゃないかということ、この辺りがすごくポイントになるんじゃないかなと聞いていて思った。その中でも、医療に関する項目や意見が非常に多かったと。コムサポート斎藤さんから提示された内容も含めて、まず、このアンケートの結果で出て

きた項目なども含めて、優先度をつけ、自立支援協議会に何の項目をどう提起するのかというのを、次回の1月23日の部会の時まで、新たにワーキングのところで、「どう協議会に上げていくのか」というところを、精査する」というワーキングを協議する場を何回か設けられないかなというのがちょっと定義できればと思っている内容だが、いかがか。

【坪田氏】

- ・12月6日に運営会議がある。その段階で居宅生活支援部会の報告をしないといけないが、今これだけやったという活動報告のアンケート報告はすることになる。その時になんか少しまとめたものを出してからがいいのか、状況報告として出すのか、如何か。

【会長】

- ・現状報告でもいいが、やっぱり声を上げるところっていうのも優先させるっていう形で入ればやりたいなと思うが、いかがか。
- ・今の流れとしても、まとめる方向性という意見を皆さんから貰ったので、ちょっとワーキング事務の方にも協力を、とは思ってるところ。

【大角氏】

- ・自立支援協議会に上げていくという話が先程から出ているが、ここが自立支援協議会。今日、ここでしっかり協議して精査したものを報告とか、そういう流れじゃないとおかしい。なので、ワーキングやりましょう。もう1回、今日皆さんから出た意見とかを取りまとめて整理するような。

【会長】

- ・じゃあ、そのような形で。それが1つの方法で。結果報告をきちんと伝えるということは1つの方法で、部会でこれを元に何かをやっていくということはやらなければいけないなと思っているので、その理解でよろしいか。

(全員、頷く。)

【坪田氏】

- ・ワーキングというか、この課題等を挙げる場を整理するメンバーについては、どういう形で考えるか。ある程度、次回のその運営会議までにやるのかとか、どのタイミングまでにそのメンバーを募って周知してやるのかというところは協議しなくて大丈夫か。

【会長】

- ・この地域課題抽出のメンバーとして参加している方々に加え、ぜひ！と言った意志を持つ方には、加わってもらえばいいと思う。次回部会にはもう少し、少し取りまとめたものを皆さんにお伝えできるといいなと思っている。

【城戸氏】

- ・議事終了の挨拶